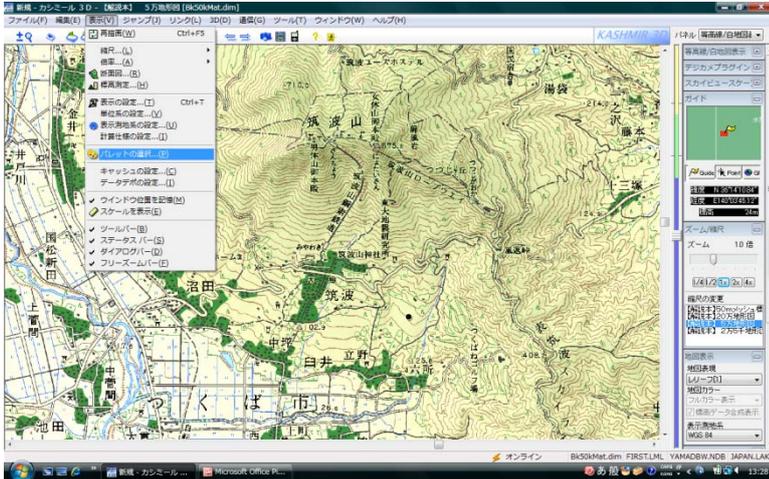


研究対象地域図の作り方

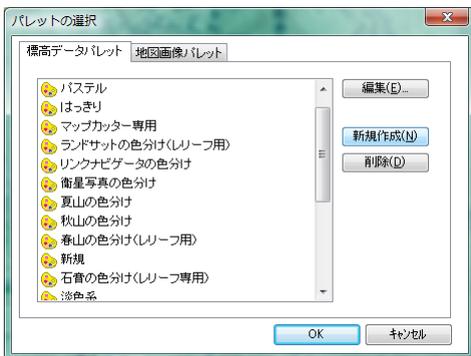
～カシミール 3D を使用する場合～

1. パレットを変更する。

[メニュー | 表示 | パレットの選択]をクリック。



[標高データパレット | 新規作成]をクリック。



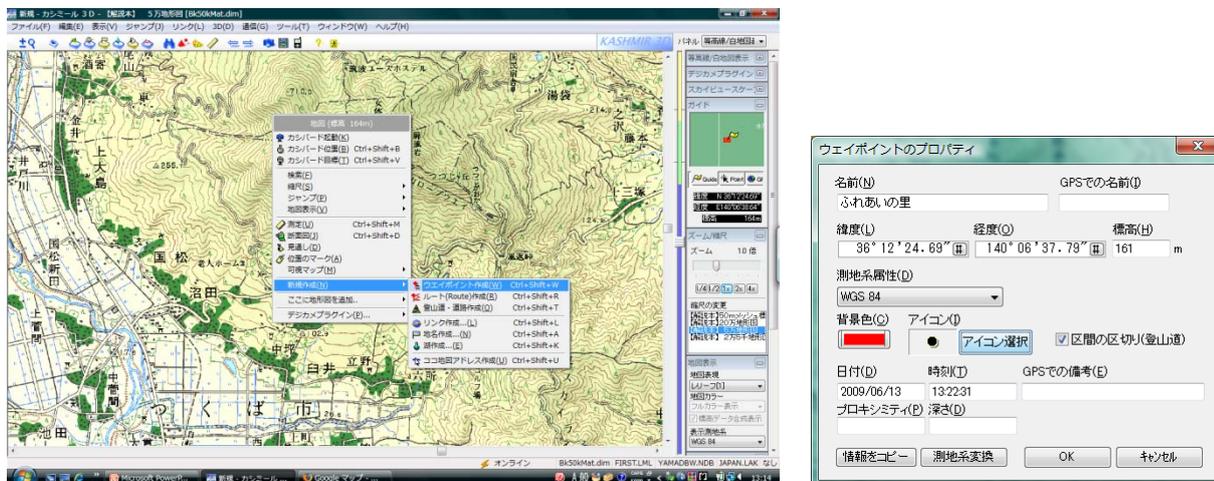
[パレットの設定] でタイトルを記入し、カラーバーボタンを押して標高帯の色を変更。

※ パステル系の色 (e.g., 白→クリーム→萌黄) がベターで、平坦地は薄い色がよい。



2. 調査地点の位置をプロットする。

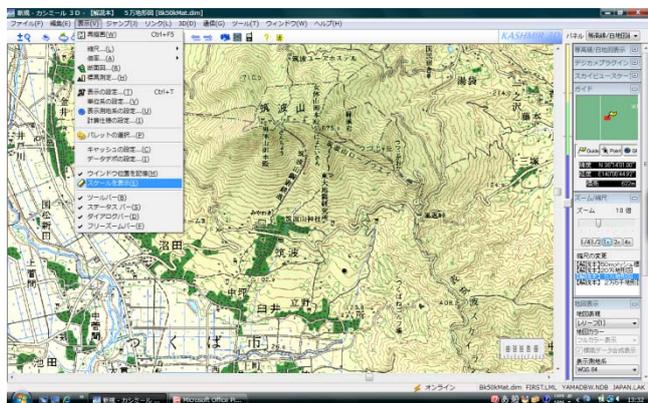
地図上で調査地点の位置にカーソルを置き、右クリック→[新規作成 | ウェイポイント作成]をクリック。
※ ルートマップを作成する場合は、[新規作成 | ルート作成]をクリック。



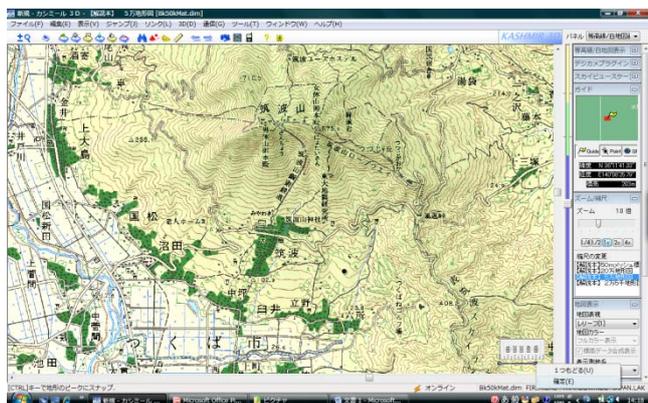
名前を記入し、[アイコン選択]ボタンでアイコンを変更。

3. スケールを追加。

[メニュー | 表示 | スケールを表示]をクリック。



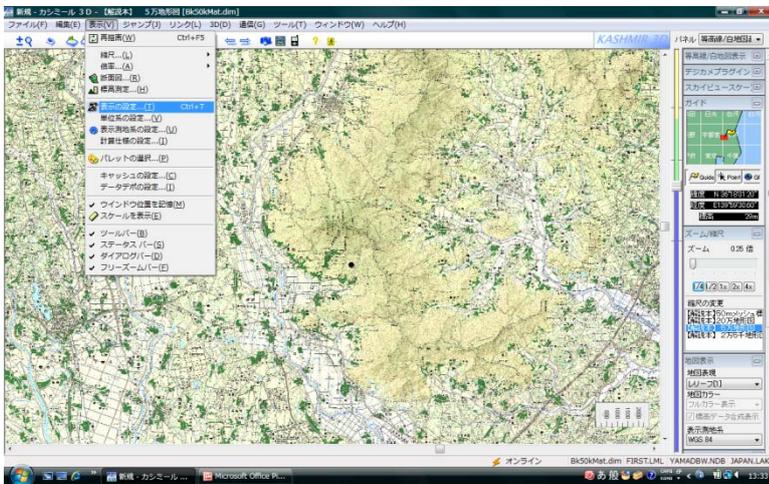
スケールバーの下に、右クリック→[新規作成 | ルート作成]でキリの良い長さの直線を作成。
※ 後で画像を出力する際に、スケールバーは出力されないため。



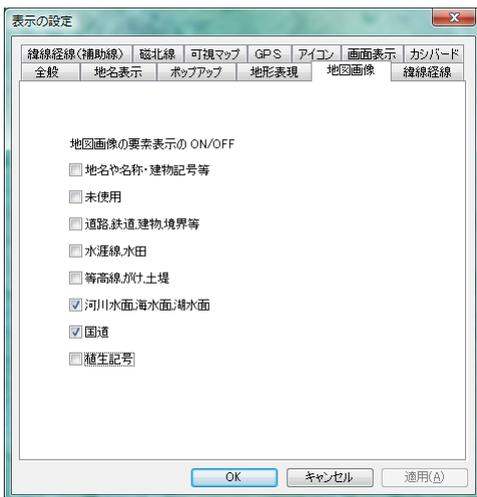
4. 地図画像の表示要素を限定する。

※ 出力範囲が狭い場合はそのままでも良いが、広域になると地名や地図記号が邪魔になるため。

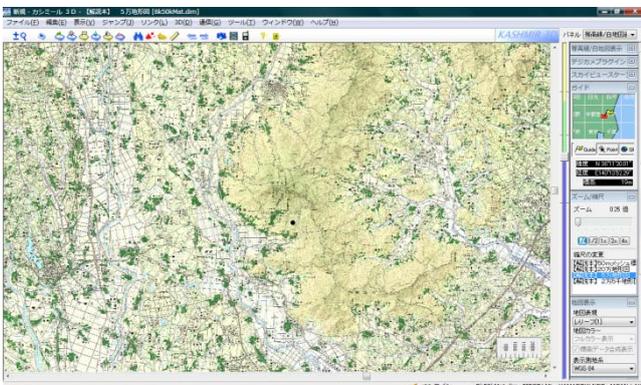
[メニュー | 表示 | 表示の設定]をクリック。



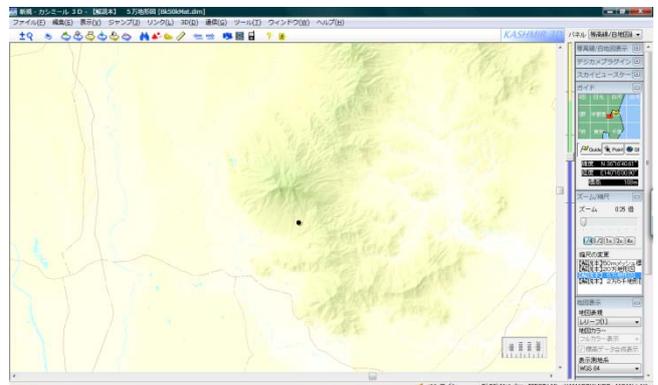
[地図画像]タブで必要な要素 (e.g., 河川・湖水面や国道) のみを ON、その他を OFF。



元の地図画像



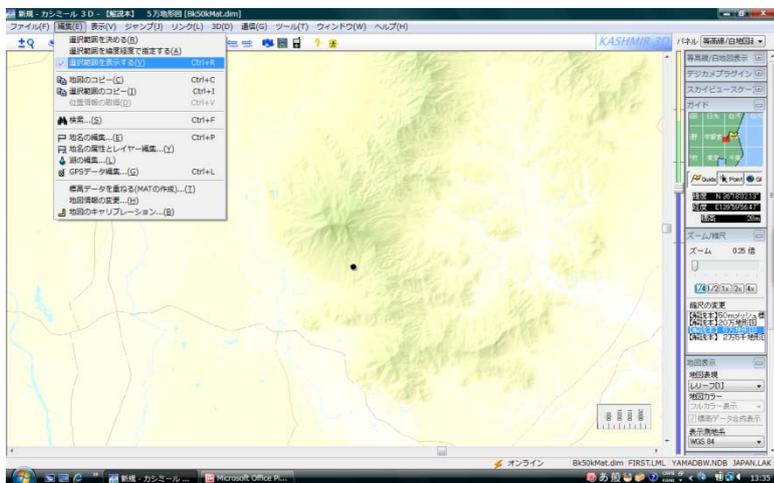
簡素化した地図画像



5. 画像を出力する。

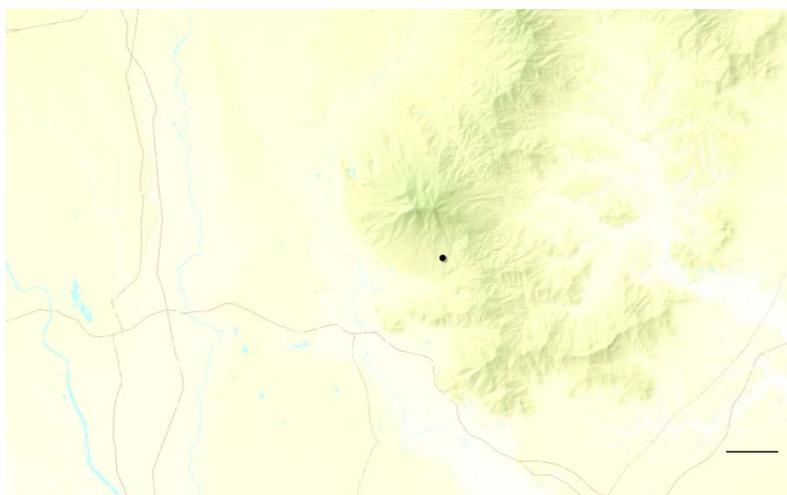
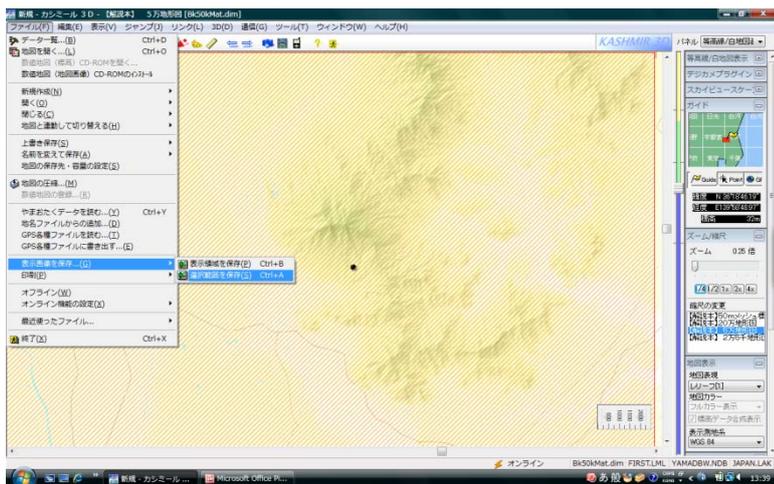
[メニュー | 編集 | 選択範囲を緯度経度で指定する]をクリック。

※ Surfer でベースマップとして使用する必要がなければ、緯度経度指定でなくても良い。



[緯度経度の指定]ウィンドウで左上と右下の座標を入力。

[メニュー | ファイル | 表示画像を保存 | 選択範囲を保存]をクリック。



← 出力されたビットマップ画像

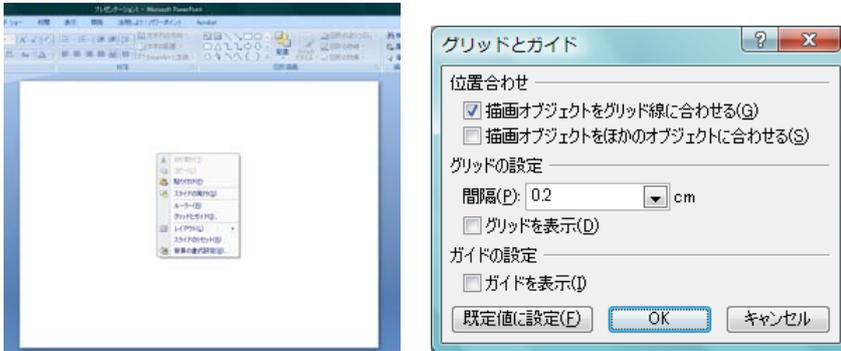
【Power Point での加工と清書】

ワンポイントアドバイス

パワーポイントのデフォルト設定ではカーソル位置の微調整ができない。

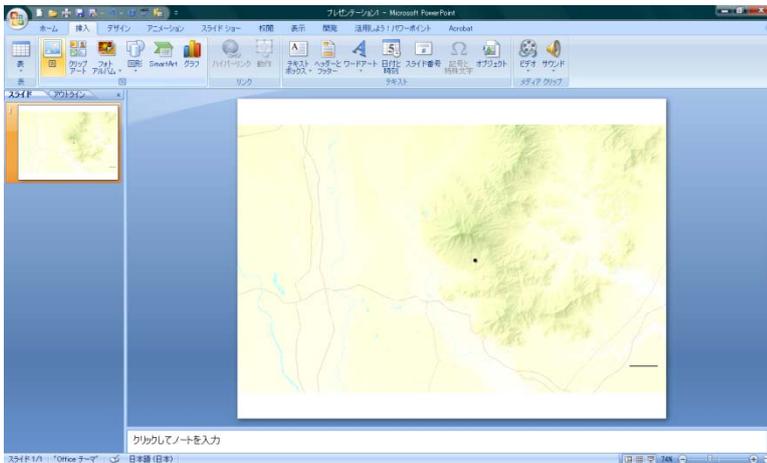
地図加工のために正確な位置合わせが必要な場合は、**Altキーを押しながらマウスを操作**する。

あるいは、何も選択していない状態で右クリックすると出てくるウィンドウで[グリッドとガイド]を選択し、[描画オブジェクトをグリッド線に合わせる]のチェックボックスをOFFにする。

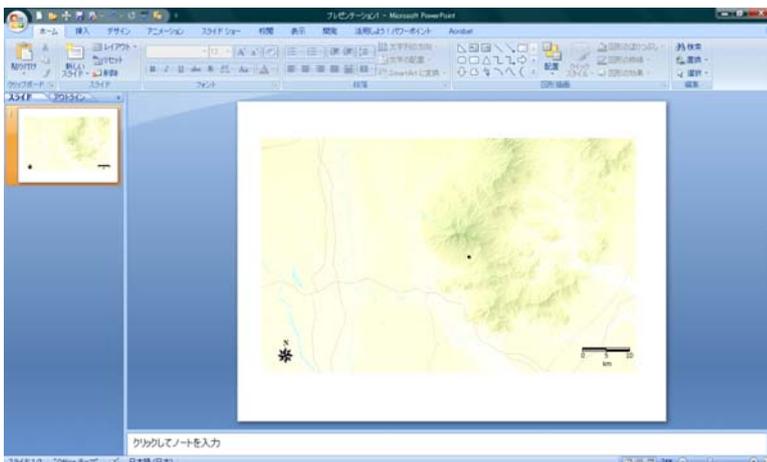


6. パワーポイントでビットマップ画像を読み込み、加工する。

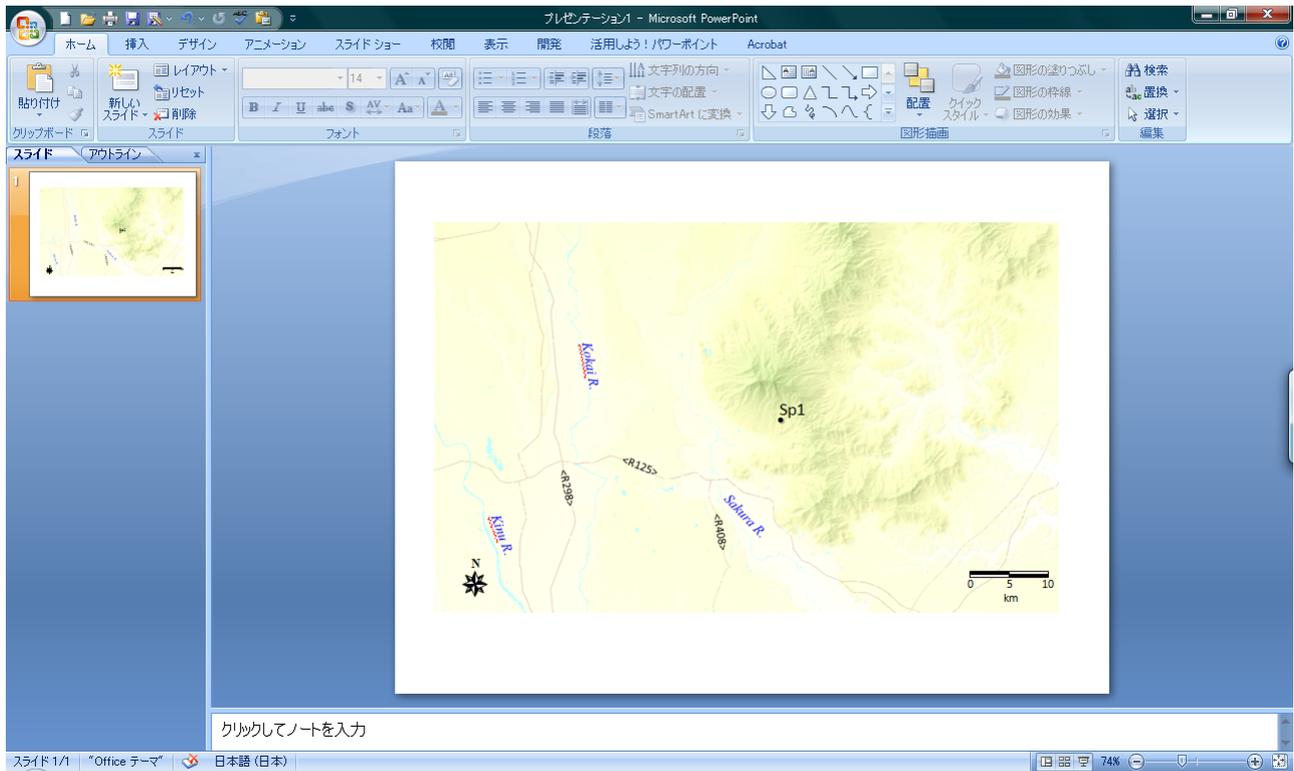
[メニュー | 挿入 | 図]をクリックし、画像ファイルを指定。



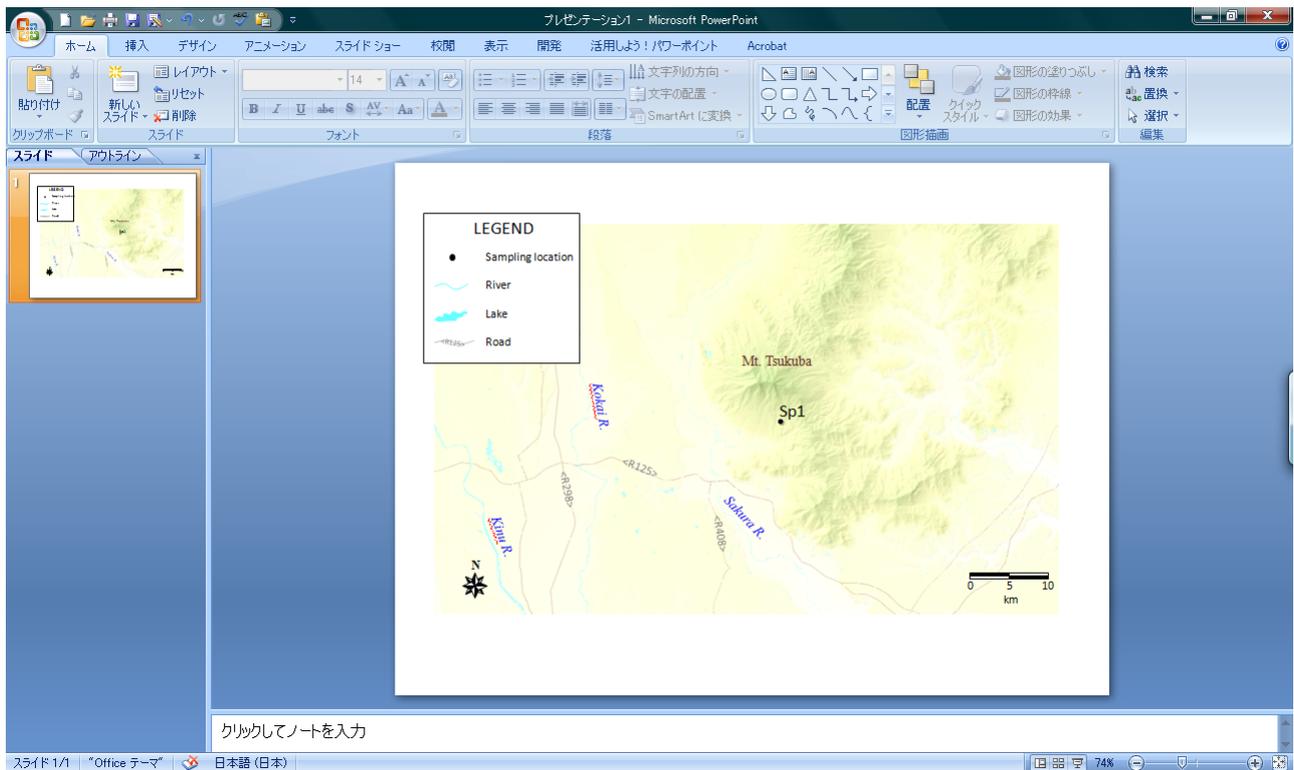
読み込んだ画像を適当な大きさに伸縮し、方位と縮尺を入れる。



調査地点番号などの必要情報を記載する。

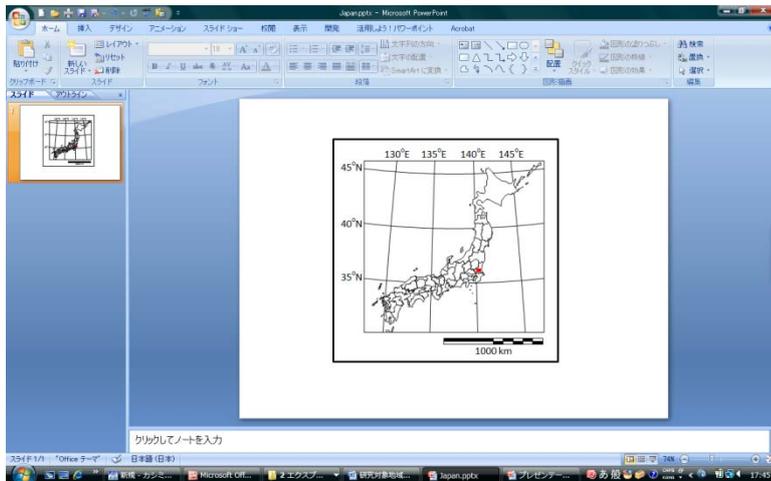


凡例を入れる。

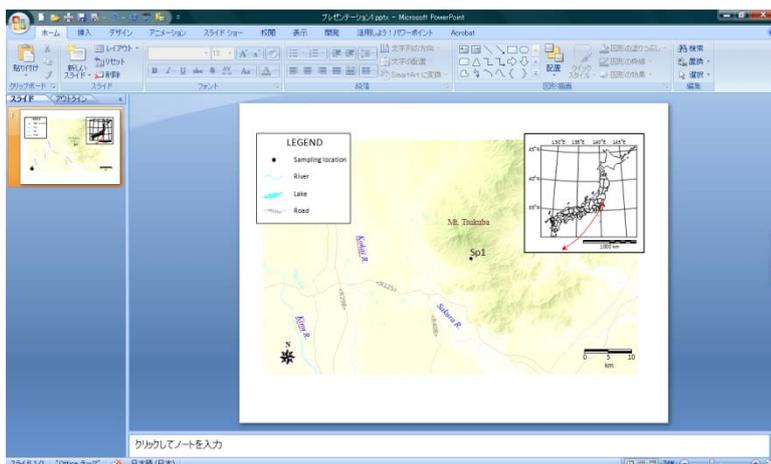


7. 対象地域図の表示範囲を示す広域図を入れる。

Japan.pptx を開き、図示した範囲を赤 (or 黒) の長方形で示す。



コピーして、対象地域図のスライドに「図 (拡張メタファイル)」としてペースト。
適当な大きさに伸縮して、詳細図に向かう矢印をつける。



中間スケールの図を加えても良い。

